

研究タイトル: 人間の感性情報処理
-顔の認知過程に関する検討-



氏名:	伊師 華江 / ISHI Hanae	E-mail:	ishi@sendai-nct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	修士(文学)
所属学会・協会:	日本認知心理学会, 日本感性工学会, 日本顔学会, 東北心理学会		
研究分野:	実験心理学		
キーワード:	①顔・表情 ②感性情報処理 ③実験心理学 ④計量心理学		
技術相談 提供可能技術:	・Semantic Differential 法によるイメージ測定		

研究内容:

研究課題

- 顔認知に関する実験心理学的検討
- 人間の感性情報処理に関する検討

研究シーズ

日常の様々な場面で私たちは人の「顔」や「表情」を目にし、そこから得られる情報をもとにして豊かな人間関係を築いています。顔は人間の社会的コミュニケーションの基盤となる重要な視覚対象であり、人間は顔に対して優れた情報処理の能力を有していると考えられています。

本研究は、人間が感性を通して顔の情報を処理する仕組みやその特徴を実験心理学、計量心理学の手法を用いて明らかにすることを目指しています。素材として用いるのはモーフィングなどの画像処理によって顔の形状を操作した合成画像です。モーフィングはある物体が別の物体に滑らかに変化する様子を表現する技術ですが、これを顔画像に適用すると、顔の形状を全体的に操作することができます。例えば、複数枚の顔画像を平均化して人の顔に共通する特徴を抽出・操作したり、ある人物の顔から別の人物の顔へとアイデンティティを段階的に変化させることができます。また、ある表情から別の表情へ段階的に移行するよう表情強度を定義することができます。その他、2枚の顔画像を元に合成割合を徐々に変えた複数枚の中間画像を連続表示することで、変化速度を統制した動画を作成することができます。図1はモーフィングによって顔の笑顔度を段階的に操作した画像例です[1]。このような顔の諸特徴の操作によって、例えばモーフィング率で定義される形状変形度の関数として心理量を表現し、印象などの感受の特徴を明らかにしたり、弁別感度の高い形状変形次元を特定することができます。

以上のような方法を用いて、人間の感性にもとづく顔の認知について興味をもって研究に取り組んでいます。

[1]伊師華江 (2009) 顔の魅力認知の多様性に関する心理学的考察. 感性工学論文誌, 第8巻 2号, pp.253-256.

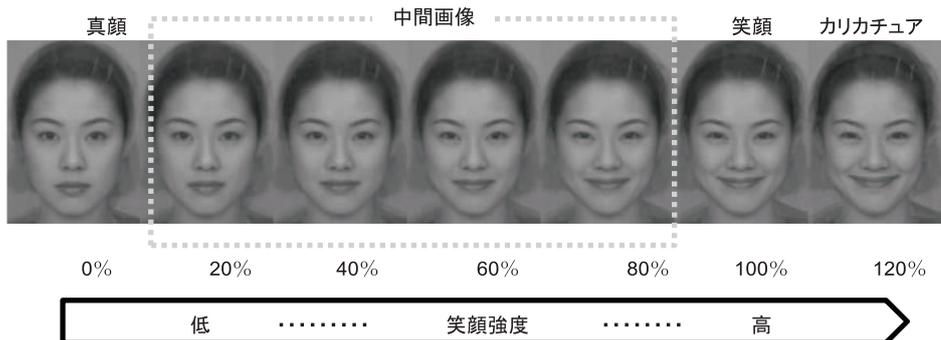


図1 笑顔強度の操作[1] 6名の女性の顔画像を各笑顔強度で平均化したもの

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	